

前回に引き続き「エシカルな消費」をテーマにお話ししたいと思います。フェアトレードというと後進国などの生産者が思い起こされるのですが、実は私たちの身近にも似たような問題があるって知っていますか？今回はもっと私たちの身近にあることを皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

### 意外と身近にある不平等な取引

そのひとつが、私たちが普段よく食べている豆腐です。ここ 10 年、毎年 500 件の豆腐屋さんが廃業しているそうなんです。スーパーに行くと豆腐がずらりと並んでいますが、最近の異常気象で大豆が不作になったり、大豆をゆでる時に使う重油が高くなっているのに、どうして豆腐の値段は変わらないのでしょうか？それどころか、一丁 20 円台で



売っているお店もあるんだそうですね。そんな豆腐ですが、本来の原材料費や豆腐屋さんの収入を考えると一丁の価格は最低でも 160 円、適正な価格は 200 円だそうです。でも多くのスーパーでは、私たちが日常よく使う豆腐を客寄せ商品としてなるべく安く店頭に並べる習慣があります。そのため豆腐屋さんは低価格で卸すことを求められ、セールの時には協賛として更に値下げを要求されることもあるそうです。その低価格の風潮は豆腐屋さん全体に影響を与えて、個人店でも適正な価格で売れないのだそうです。そして体力がなくなった豆腐屋さんがいま次々と倒産しているのです。こうしたことは豆腐だけでなく、こんにゃくや、納豆、卵に関わる多くの人たちが同じような立場に立たされているのです。この悪循環を止めるには私たち消費者が、ちゃんと良い素材を使った商品を選び、適正な価格で買うこと、それを少しづつ続けることが大切だと専門家は言っています。

### 私たちの価値観を考えてみませんか？

いまモノとか生活とかの価値観が変わろうとしているような気がしませんか？例えば、これまでお金などの数値で現わすことができる幸せばかりが重視されてきたと思うのですが、近ごろでは経験とか、やりがいとか数値化できない幸せも同じように大切にされるようになってきました。そんなエシカルな考えは金融にも取り入れられるようになってきました。それは私たちが預けたお金がどのように使われるかってことです。預けたお金が社会や環境のことをあまり考えず、かたよった利益ばかりを追求することに使われていたらどうでしょう？でも「せっかく貯めたんだから金利がいいところがいい！」それもひとつの考え方でしょう。そして「きちんと世の中のためになる融資をしてくれるところがいい！」という考え方ひとつ。そこは価値観の違いということになります。そう考えると持続可能性とは、「私たちの価値観を考え方」と言い換えることができるかも知れません。

